

スクーリング・アンケートより(2)

スクーリング・アンケートより、受講後の感想の一部を紹介いたします。

●高齢者福祉論

- ・「利用者支援に迷うとき、利用者の思いを大切にしてい」「常に利用者本人に立ち返る」「利用者の最大限の利益を守るために何ができるか迷い悩みながら進んでいく」という先生の言葉に共感しました。
- ・技術や知識の根底にある、倫理や価値観といったものが、本当に埋もれてしまっていると常々現場で感じています。介護者主体になり、ゲストには一応聞いている…というタイムスケジュールは働いている側もストレスになっているものだと思います。専門職として慣れが怖くなってきた3年目の介護士です。
- ・認知症の病を抱えていても「本人の意志を確認する」「自己選択」「自己決定」を促す、基本に立ち返る機会となりました。ケアマネージャーとして携わっていても介護者の意向を認知症が深いほど、尊重していたと反省しています。
- ・「実践の中で疑問が出てくる」という先生の言葉に実感がこもっていて印象に残った。疑問を解決していくために先生は勉強をされたということだったが、私も実践および理論を学ぶ中でも常に疑問の持てる人間になりたいと思った。何を疑問に感じているかはその人の価値観や倫理観で変わってくるだろう、そのことを忘れず常にこれでいいのだろうかと問いかけながら進んでいきたいと思う。

●児童・家庭福祉論

- ・ビデオを見て、親を思う子どもの気持ちは想像以上だと思いました。そして、今までの子育ての中で不必要に叱っていた場面を思い出しました。今回のスクーリングによって子どもにとって何が一番良いかということ在今后頭に置けるような気がします。
- ・子どもという存在の見方が変わった、人というのは弱い立場と強い立場を常につくりたがる生き物だと感じた。そしてそうした中の環境にいとそれが当たり前ようになっていく、問題が問題にならないのである。やはり、専門的意見が言える職種の重要性を感じた。長い人類の営みの中でまだそうした歴史が浅いことに驚きを感じ将来の宝物を育てていく責任を強く感じた。
- ・虐待されている子どもの現実をDVDで観て、児童相談所の対応の仕方とその難しさが理解できた。虐待の疑いがあるだけではなかなか子どもを保護できない現実と過剰な権力の行使を恐れる児童相談所。児童相談所の対応も理解できないわけではないが、疑いがある場合には子どもの命を最優先に考え、積極的に行動してほしいと思った。